

四代田辺竹雲斎

大阪府堺市生まれの現代竹工芸家。東京藝術大学卒業後、父三代田辺竹雲斎に師事し、2017年四代田辺竹雲斎を襲名。竹雲斎は代々、花籃の名手として知られるが、四代竹雲斎は、継承してきた伝統的な技術を純粋芸術と融合させることを目指した。伝統的な透かし編みを軸に、無駄を排したシャープで普遍的なフォルムを実現したこれまでにない新しい花籃は、華道家のみならず、海外でも高く評価され、大英博物館、メトロポリタン美術館、ボストン美術館など世界の美術館に収蔵されている。また、竹による大規模なインスタレーションを各地で精力的に発表し、現代工芸の可能性を世界に向けて発信し続けている。